

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3190100663		
法人名	株式会社キリンの里		
事業所名	そよかぜのファミリーキリンの里		
所在地	鳥取市用瀬町鷹狩737-1		
自己評価作成日	令和4年 1月 4 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あいおらいと		
所在地	鳥取県鳥取市気高町浜村342番地		
訪問調査日	令和4年 1月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人ひとりに寄り添ったケアができるように職員一同取り組んでいます。また、残存機能やADLの維持向上を目標として、「出来ることはご自身で、出来ない事のみサポート」を行うよう継続して心がけています。認知症の進行と身体機能の低下が緩やかになるように、医療担当医と連携し日常生活の中で、体操や合唱、身体レクリエーション、脳トレーニングを工夫して楽しく過ごして頂ける施設作りに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設後5年目となり、地元とのつながりを重視し、地域の高齢者施設の一つとして役割を担っています。法人の理念を目標に、サービスの質の向上に努めています。運営推進会議を通して、地域や行政、関係機関とも連携を図っています。また、現在、新型コロナウイルス感染防止のため面会等が制限されるなか、健康管理をはじめ体力の保持に協力医と連携しながら取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が一目見えるようにリビングの壁に掲示してある。毎月の職員ミーティングの場にも更に共通意識を持つように取り組んでいる。	理念は、毎月の職員ミーティングで伝えられています。また事業所内の玄関に掲示してあります。しかし、職員全員への周知が十分ではありません。	全職員が理念を理解することを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域住民との交流は殆どできず、運営推進会議の地域区長を通して情報交換等を行い、利用者様が近所への散策を定期的に行っている。	新型コロナウイルス感染防止のため、地域交流が難しい状況です。その中で現在、地区の区長さんが運営推進会議に参加し、地域の情報等を提供していただいています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の施設見学や相談の際にできる限りの認知症ケアの経験を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス活動実績を運営推進会議に報告し、評価して頂き、協力医や町福祉課、包括支援センター職員からの意見と助言を取り入れ、サービス向上に生かすように努めている。	運営推進会議では、新型コロナウイルス感染防止やワクチンの接種、利用者の健康維持に向けた助言を受けています。また、毎回協力医も参加し、医療的な助言を受けています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際に意見交換、情報交換し、利用者の状況変化に応じて必要時に随時連絡をしている。	運営推進会議での助言、利用者の介護度の変更、広報誌による情報提供等、連携を図っています。また、市町村から、季節の行事などの際に利用者に対する支援が行われています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて職員ミーティングで意識を共有し、現在身体拘束が必要な利用者は居ない。また、運営推進会議には必ず身体拘束の現状有無を報告している。	現在、該当者がいませんが、身体拘束についての研修は、年間研修計画に沿ってマニュアルを用いて実施されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について年に二回職員ミーティングで研修、意識徹底し、更に、日々のケアの中で些細なことでも職員同士で話し合い、虐待を防ぐ介護環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営方針規定、権利擁護マニュアルを作成し、年間計画に基づき職員ミーティングの際に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書・重要事項説明書に沿って丁寧な説明に心がけている。また、ご本人や家族の疑問不安点等には分かりやすく説明して理解、納得して頂けるように努める。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の委員として利用者や家族にも出席して頂き意見を運営に反映している。また面会時に意見や要望を伺い、運営と日々のケアに反映するように職場内で共有する。	日頃から面会等に来られた家族に意見を伺うようしています。また、家族には毎月ファミリー通信が送られています。運営推進会議には、利用者や家族の方も参加しています。しかし、運営会議の内容が職員に十分周知されていません。	運営推進会議の内容を毎月のミーティングで報告するとともに、職員が交代で運営推進会議に参加できるような体制に期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員連絡票を活用して意見や提案を常に言える環境にあり、代表者、管理者が参加するミーティングで更に話し合い、反映させている。	日々、連絡ノートに職員が気付いたことなどが記載されています。また月1回のミーティングでは、法人代表も参加し意見が聞かれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心、やりがいをもって働ける職場作りに努め、職員の意見、要望等をミーティング、個別に対話する機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に積極的に参加できるよう取り込んでいる。個々のケアの実際と力量にあった研修の周知、参加も促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	例年通りであれば、包括支援センター主催の研修会に参加しサービス向上への取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には施設の見学をお願いし、不安な事等を聞き、安心して生活して頂けるよう努める 各職員の勤務経験から利用者との関係を築くための取り込みを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前説明の際に家族の思い、不安な事等に耳を傾け、納得安心して頂けるように努める 面会時には近況を伝え、要望等を伺う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援計画や他機関の情報のもとに本人や家族と対話する中で最善と思われる支援につなげるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の思いを十分把握し、日々の生活において安心して生活してもらえるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と利用者及び担当職員ができるだけ連絡を取る機会を設けるように努める また、気軽に立ちよって頂ける雰囲気作りに努める 管理者が定期的に家族へ状況を告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方々や友人関係の方も訪問しやすい雰囲気作りに努めている。	新型コロナウイルスの感染防止のため、来所等が出来ない状況です。今後、感染状況を見ながら対応を検討しているところです。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの特徴に合わせて、テーブル、座席の配置を工夫している 複数の利用者が関わられるよう職員が話題作りや仲立ちをするように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要性や要望に応じ、支援を行っている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活スタイル、生活環境及び思いや意向を把握するように努めている。	日々、利用者の話を聞き、思いや意向を把握するようにしています。また、これまでの人生等について聞き取りに努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族及び関係機関と話し合いを持ち、生活環境等について把握に努めている。 入居後においても生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活動作、会話や表情により現状の把握に努めている 医療機関と連携し身体状況についても把握するように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の連絡票から職員がカンファレンスを開き必要に応じてミーティング、本人、家族等と話し合い場を設け、主治医の助言を頂きサービス担当者会議に発展させて介護計画に取り入れている また、モニタリングによる評価を定期的に行っている	毎月のミーティング時にカンファレンスが開催され、職員の意見が聞かれています。また、主治医や家族の意見も聞かれ介護計画が作成されます。その後、モニタリングによる評価を定期的に行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を生活動作表に記録し、職員間で共有しながら状況の変化や問題点をカンファレンスし、サービス担当者会議に発展させて解決に向けて介護計画見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、家族等と相談の上、日用品購入やかかりつけ医への受診及び行政等への提出物等について付き添いなど行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努めており、有効活用、地域へ溶け込むよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からの主治医への受診や当事業所の協力医への定期受診を行い、適切な医療を受けて頂いている。また、受診結果を家族へ報告している。	これまでのかかりつけ医へは継続して受診し、家族にはその都度連絡が行われています。また、近隣の協力医が定期的に往診し、利用者の健康管理が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師の配置はないが、必要に応じて医療及び看護師と連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時及び緊急時も含め利用者が利用する医療機関と連携、情報交換し対応可能な状況としている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期について説明を行っています。また、重度化が進行した場合は家族等の意向を伺いながら主治医の意見も含め協議していく事としている。	契約時に終末期等の説明を行っています。重度化が進んだ場合、家族等の意向を聞きながら、医療機関と連携し対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアル等により、初期対応等の周知、徹底を職員ミーティングで行い、急変時の対応については協力医師と速やかに連携できる体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを作成し職員ミーティングで周知している、年に2回の防災訓練を行い防災マップをもとに避難場所を確認している。地区の区長を通し地域の方々に協力をお願いしている。	年2回火災や水害を想定した避難訓練が行われています。職員は、事務室に掲示した防災マップで確認し、災害時には地域の協力を得ることができるよう取り組んでいます。	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性やペースを尊重し言葉かけに努めるとともに、排泄入浴などプライバシーに十分に配慮した支援に心がけている。	利用者の尊重とプライバシーについては、日頃から職員は気をつけています。また、年間の研修計画で、人権についてマニュアルに沿った研修が行なわれています。しかし、実際の支援においては気になる対応が見られることもあり、今後の取り組みに期待します。	人権、プライバシーなどについて、認知症グループホームでは特に重要なことです。今後、さらなる取り組みを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活から本人の意思を聞き取りながら、自己決定できるように声掛けと傾聴に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを大切に支援に心がけており、その人らしく生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みを尊重し、季節感のアドバイスをしながら利用者それぞれの身だしなみに支援している。また、二ヶ月に一回移動美容院を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地元産お米や季節折々の食材を使い、利用者にも皮むき、テーブル拭きなど準備作業に手伝って頂き、職員とともに美味しい食事作りに取り込んでいる。また職員が月ごとに献立表を思案して、季節毎に旬の食事を利用者に提供して楽しんで頂けるように努めている。	食事を楽しめるよう利用者との買物や食事の準備や片付けを行っています。食事の準備では、野菜の調理等を利用者に手伝ってもらう機会を多くしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の身体状況に合わせた食事、栄養バランスを考えた食事を提供している。水分、食事の摂取量を記録し、把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの方にあつた支援を行い、毎食後口腔ケアをして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄状況を記録し把握の上、排泄時に必要な介助を行い、確認し、異常ありなしを把握している。ご本人の納得に上、パットや紙パンツ類の使用も支援しており、自立な部分は声掛けで自立支援している。	排泄については、継続して自立につながる支援に取り組んでいます。現在、一人ひとりの排泄の時間を把握し、日課の節目には声かけを行い、適切な排泄に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療機関への相談も含む、水分摂取量、食物繊維を多く含んだ食材提供に心がけている。また、便秘予防の運動なども行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者になるべく同じ頻度で入浴して頂きながら、それぞれの意思と好みで入浴を楽しめるように工夫して支援している。入浴前にバイタル測定で体調確認、入浴後は必ず記録している。	週2回入浴が行われています。また、入浴を好まない利用者については、根気強く働きかけをするなど工夫しています。入浴の希望があれば、その都度本人の健康状態などを考慮しながら対応が行なわれます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣に応じた休息支援を行っている居室内に温度湿度に気を配り、過ごしやすい環境に心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は職員間で共有し、服薬時は2人確認体制で服薬支援している。また、利用者の状態に変化がある場合に協力医に連携して服薬調整して頂く。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方の能力にあったゲームや役割を職員とともに考え、行ってもらっている、季節感のある行事を行い、気分転換などの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設敷地内で日光浴や散歩できるように支援している。季節折りのお花見や紅葉狩りなどのお出かけを行った。	季節に応じて、施設周辺で散歩が行なわれています。また、近隣のホームセンターや買物などの際、一緒に出かけるよう心がけています。また、花見や紅葉狩りなどが行なわれます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在利用者様に現金所持の方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話ができる方については電話の取次ぎを支援している、手紙のやり取りを行う利用者は居ない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が不快、混乱を招くような、刺激がないように、居心地のよい環境提供を心掛けている。生け花を生ける、壁飾りを工夫して季節感のある空間作りに努めている。	日頃から、事業所内の環境整備に心がけ、清潔の保持に努めています。また、季節や行事に合わせた生け花や壁面装飾等も行われています。利用者の健康に合わせ、事業所内の温度や湿度が適切に管理されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者はその時の雰囲気や状況により居場所を変えたり、気の合う人同士が過ごせるように、テーブルや椅子の配置変更、席替えを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔の写真や使い慣れた椅子や生活用品、好みの飾りをそれぞれの居室持参して頂き、馴染みのある居場所で居心地よく過ごせるように努めている。	これまでの生活スタイルをできるだけ継続できるように支援を行い持ち物等も配慮しています。居室等の掃除は職員が毎朝行い清潔な環境の維持に努めています。また、手伝いが可能な利用者は一緒に掃除を行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部にはそれぞれトイレ、脱子所およびリビングなどの表示を工夫し、分かりやすさや安全に配慮した工夫もして、戸惑いなど混乱を防ぐ安全な環境作りに心がけている。		